

## はじめに

本学では過去数年にわたり「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」と名付けた全学的な改組の準備を進めてきましたが、2022年度は、いよいよ新たな組織体制での教育研究活動がスタートしました。2022年度から新たに設置された経営学部、国際学部、児童教育学部、建築都市学部、文理融合学部、人文学部では、順調に入学生を迎えることができました。同時にすべての学部学科で、グローバル化する現代社会における価値観の多様性を踏まえ、積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身に付けた学生を養成すべく、新しいカリキュラムがスタートしました。

湘南校舎 20号館では6月から、児童教育学部の保育実習室「あかちゃんひろば『きらり・Tokai』」が開室しました。3歳未満の乳幼児を対象とした子育て支援施設として、地域コミュニティに貢献するとともに、児童教育学部の学生の保育実践の場としても活用されます。また2023年3月には、2020年度から整備を進めてきた新校舎「阿蘇くまもと臨空キャンパス」が完成し、竣工式を行うことができました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大防止のため、過去2年間は遠隔形式での授業が多くなりましたが、2022年度は感染症対策を継続しつつも、可能なところから従来の授業形態である対面でのコミュニケーションを中心とした大学の教育研究活動へと復帰していく一年となりました。同時に2022年度は、コロナ禍で一旦とだえてしまった学内外行事や課外活動等を再開させることが課題となりましたが、学生、教職員をはじめすべての関係者の尽力により、それが可能となりました。たとえば、医学部看護学科によるハワイ語学研修や経営学部観光ビジネス学科による国内観光研修も、それぞれ3年ぶりに現地で実施できましたし、東海大学の所有する研修船・望星丸での研修航海も再開することができました。2022年度の航路は国内に限定しましたが、2023年度は国際航路を予定しています。

研究面では、4月から2名の教員がURA（University Research Administrator）として着任しました。また、本学の博士課程・博士後期課程在学中の大学院生や博士学位取得直後の研究者を特定助教・特定助手として採用する制度を新設し、翌年度からの採用者も決定しました。このような取り組みを通じて、本学の研究活動がますます活性化することが期待されます。

本学は、公益財団法人大学基準協会による認証評価を、2024年度に受審することになっています。2021年度には、10月1日付で大学評価委員会を大学評価審議会へと改編し、その下に内部質保証推進委員会を新たに設け、大学全体の自己点検・評価および内部質保証の体制を整備しました。2022年度の自己点検・評価の結果として、大規模な組織改編により、とくに事務系部署間の役割分担や情報共有・連携のあり方に課題があるということも明らかになりました。2023年度は、これらの課題を改善するための行動が求められています。

関係各位におかれましては、ぜひ本報告書をご一読いただき、今後の教育・研究活動の改善のた

めにご活用いただくようお願いいたします。

2023年11月

東海大学学長  
松前 義昭